



Kumamoto University Library Bulletin, No. 36, Apr. 2003

- 世界俳句とJim Kacianの業績
- ますます充実した電子ジャーナル
電子ジャーナル・データベース One Point ①
 - J S T O R
- 図書館システムの更新に伴う
オンライン研究室サービスの変更
- 平成15年度事業計画



御入国御行列之図（永青文庫蔵熊本大学付属図書館寄託）

世界俳句とJim Kacianの業績

リチャード・ギルバート



俳句が作られている国の数や言語の数、さらには一年間の出版数の多さから考えると、俳句は間違いなく現代において世界的に最も人気のある詩形である。これは情報工学の進歩の賜で、この詩形によって共通の美と形式への意識に基づいた国際的な文学共同体の出現の可能性が生まれた。つまり、俳句そのものの強力な土台は、本来は日本の土壌からではあるが、言語、文化、歴史の違いを越えて、他へと広がる驚くべき力を示している。この意味では、俳句は私たちの時代精神と大いに一致しているように思える。

しかし、最近では文学そのものは本来地方芸術的な形式で、その土地にあってこそ最もよく育まれるものである、と言われることがある。この発言は有名なバルカン出身の俳人で出版者でもあるDimitar Anakievのものだが、現在の世界俳句の状況に対する問題提起でもある。“the global haiku” (世界俳句) の“the”は統合、あるいは一体となった文学のジャンルの存在を示唆している。「世界俳句」という表現がますます頻繁に、しかも漠然と使われるようになるにつれ、Anakievの発言は別の問題を引き起こす。その問題とは、「世界俳句」という概念は受け入れられないのか、あるいは、そもそもそのような概念はあり得るのだろうか、ということである。この問題は、世界の芸術形式としての俳句を広めるために現在結成、あるいは再結成されようとしている俳句組織にとっては特に重要な問題である。

では、世界俳句あるいは世界俳句運動の未来像とは何か？世界俳句共同体は創設されるだろうか？俳句は世界的なジャンルとして国際的な文学共同体の共通基盤となり

うるのか？あるいは、「世界俳句」という表現は一種の矛盾語法なのか？これらの問題は理論的あるいは学問的に解明されるかも知れないが、今のところ何とも言えない。しかし、現実には革新的な動きがすでに起こっているのである。この点に関しては、特にアメリカ人の俳人で、編集者兼出版者であるJim Kacianの業績と活動に触れてみたい。Kacianは、2002年11月にカリフォルニアのロングビーチで開催された環太平洋俳句大会（「国境のない俳句」がテーマ）で「さっと世界一巡り」と題した基調講演を行っている。この講演（近々印刷出版予定）は、2000年に始まった「俳句という名の世界旅行」（引用はKacianの講演から）¹⁾と銘打ったユニークな俳句巡礼に関するもので、その内容は様々な国際俳句大会、ワークショップ、テレビ取材、そして世界各地の支部設立への招待などである。

Jim Kacianはいくつもの肩書きを持っている。まず最初に、彼は著名な詩人であり、20以上の国々で発行されている英語の機関誌や雑誌でこれまで100以上の俳句を発表してきた。最近では、2002年に、権威あるJames Hackett賞を受賞している。1997年、Kacianは国際俳句交流協会（日本）とアメリカ俳句協会の共催による記念すべき大会に参加するため初来日した。その際、東京にある俳句文学館を訪問したが、そこで佐藤和夫氏（早稲田大学名誉教授）より1996年Mainichi Daily News（毎日新聞社の英字

新聞) 英語俳句の優秀賞を授与された。受賞したのは次の俳句である。

steamy night
fireflies 蒸し暑い夜 螢は 雨の中
out in the rain

次の俳句はKacianの代表的な俳句で、革新的な彼のスタイルは他の国々の俳人たちに強い影響を与えた。

the river
the river makes 川となる 月の川
of the moon

上記の俳句は彼の俳句集*Six Directions* (1996) で発表され、1997年の『第1回毎日俳句大賞作品集』(毎日新聞社)にも掲載された。この俳句は、これまでブルガリア語、ドイツ語、フランス語、アイルランド語、日本語、ルーマニア語、トルコ語、セルビア語に訳され、北米や他の国々から出版される俳句選集に収められることが多い。

1997年、Kacianは*Frogpond: Journal of the Haiku Society of America* (『蛙池：米国俳句協会誌』)の編集者となり、現在もその任にあたっている。また、俳句と俳句関連の書物のみを扱う出版社としては、世界最大のRed Moon Press (朱月出版社)の創立者兼オーナーでもある。同社から出版された*The Red Moon Anthologies of English-Language Haiku* (『英語俳句朱月選集』)シリーズは選句の質の高さと現在の俳句の動向を反映していることから、英語俳句運動に影響を与え続けている²⁾。

Kacianの旅はロンドンとオックスフォードで開かれた世界俳句フェスティバル³⁾から始まった。この旅は、彼の講演から引用すると、「世界最短詩である俳句は異国的な温室以上のものになり世界文学の仲間入

りをするができるだろうか？」という問題提起でもあった。20余りの国々から訪れた著名な参加者たちはこの問題を議論した。さらにスロベニアのTolminで開催された「世界俳句大会」には数カ国からの参加があった。その時の主な参加者は、Zoran Doderovic (セルビア)、Dimitar Anakiev (スロベニア)、Zinoviy Vayman (ロシア)、Alain Kervern (ブルターニュ)、夏石番矢⁴⁾ (日本)、Ion Codrescu (ルーマニア)であった。この大会ではJim Kacian、Dimitar Anakiev、夏石番矢が設立運営委員となって「世界俳句協会」(WHA)を設立した⁵⁾。

その後、WHAはさらに発展をとげ、ボランティアによる膨大な作業の結果、国際的なウェブサイトを立ち上げた。これはKacianが最初に提唱した次の言葉に端を発する。「そこではすべての会員が作品を発表出来るような... (中略)...大規模ではあるが、通常は編集されていないような他のサイトとは違って... (中略)...世界各地にある支部の編集者が、俳句が国際的になっても、句が作られたそれぞれの土地の代表的な作品を選べるようにして、地域性と特殊性が失われないようにする。」WHAのウェブサイトは今後さらに改良の余地はあるものの⁶⁾、現在様々な国々からWHAの趣旨に沿って英語以外の言語によって書かれた俳句も掲載されている⁷⁾。

次に、KacianはスロベニアのVilenica Caveへ移り、国際文学フェスティバルの年次大会がその洞窟で開催された。詩の朗読に先立ち主催者は「10年ほど前にVilenicaで俳句を詠んだ最も最近のアメリカ人はAllen Ginsbergでした」と挨拶して、その後Kacianの功績にふれた。事実、Kacianの経営するRed Moon Pressのユニークな業績のひとつは、バルカン俳句を英訳し、現代に息づくその様式を北米や他の国々の読者に紹介し、バルカン俳句の発展に寄与した

ことである。その功績もあって、Kacianは賞賛をもって暖かく迎えられたのである⁸⁾。スコプリュでは、詩は「大ニュース」となり、テレビでも放映された。様々な国から集まった俳人たちの扱い方としては、日本以外では異例と言えるものであった。Kacianはブルガリアのソフィア（1836年、初めて俳句が西洋語に翻訳されたのもこの場所だった）では、ブルガリア俳句協会設立の司会を依頼された。また、バルカン半島最後の訪問地、ユーゴスラビアのベオグラードではユーゴスラビア国際文学フェスティバルで「50以上の国々から選ばれた受賞者と共に」スピーチをする機会を与えられた。

次にKacianが向かったのはニュージーランドのKatikatiであった。そこには曲がりくねった一本の道があり、道の両側に配された24個の石のひとつひとつには英語の俳句が刻まれている。訪問者はこの「俳句の道」を散策するという趣向になっている。「この俳句の道は、私たち俳句に携わる者の想いを形にしたもので、最も大切にしているものである。」Kacianの俳句は「山々が、西から絶えず流れてくる雲を細かく砕いている光景がはっきり見える場所に、ぽつんと」置かれている。

clouds seen
through clouds 雲かいま 見る雲 かいま見る
seen through

Kacianはニュージーランドからタスマニアを通して、シドニーへ至り、そこでゲスト講師に招かれ、俳句の紹介をした。シドニーのある小学校を訪れ、生徒たちと交流した時のことを回想して、次のように語っている。「書くことは力である。誰にも侵されない全く自分だけの心の空間を築き上げる力である。人生の多くは他者、つまり、文化、両親、教師、友人

の影響を受けている、とよく言われる。しかし、書くことは、これらの影響を全く受けず、自分自身だけから恩恵を受ける場所である。書くことは自分自身の部屋である、と私が言うと、生徒は皆同意して、これからそのような場所でもっと時間を過ごしたいなあ、と言った。」

旅も終わりに近づきKacianは日本を訪問した。様々な俳人と会い、都会から離れた地では英語俳句を紹介しながら、最後に筆者が住んでいる熊本を訪れた。

阿蘇地方に足をのぼし、温泉につかって英気を養ったKacianはこのように書いている。「体がほぐされて、すっかり気持ちがあつろいだ。まるで温泉の神が私の中に侵入して旅の疲れをいやしてくれたかのようなようだった。」

その後、WHAの「事務局」が新しく日本に開設され、夏石番矢が中心になって継続的に運営している。WHAの「第2回世界俳句大会」⁹⁾は2003年10月3日から5日まで天理市で開催される。現在、KacianとAnakievは運営には直接関わっていないが、産声を上げたばかりのWHAという組織は設立当初の精神を今も持ち続けている。両氏の参加が大いに望まれるところだ。俳句の旅を振り返りながら、Kacianは聴衆に語りかける。「俳句は、人と人をつなぐ役目を果たしています。現に今ここで私達がそうであるように。俳句は私たちを鑑賞という共通の場へ誘います。そして、違いを恐れたり、軽蔑したりするのではなく、むしろ私たちにその違いを理解させ、共感させてくれるのです。国家的あるいは文化的な狭い考え方に引きこもるのではなく、もっと大きな解決策へと導いてくれるのが俳句なのです。」¹⁰⁾おそらく、恐れることなく「相違を鑑賞すること」は、文学運動としての世界俳句の定着に不可欠な鍵となるであろう。

日本の詩芸術の影響を受けた詩人であるWallace Stevensが残した数々の警句のひとつに、「詩はいん石」¹¹⁾がある。この警句は、俳句詩人、出版者、そして教育者であるKacianにもあてはまるかもしれない。英語だけでなく他の外国語で作られた俳句に慣れ親しんでいる詩人や読者はKacianのプロメテウスのような変幻自在な活動をすでに熟知している。その活動は、あたかもいん石のように燃え輝きながら水平線を越えて、可能性という新しい弧を描いているように見える。Stevensの警句のイメージは、新しい形式を生み出し、文化的な土壌を豊かにしてくれる詩の姿が地球上に現れる可能性を期待させる。詩人として、現代の俳句精神の使者として、Kacianがこれまで行ってきたことは今後も実を結び続けていくことだろう。

(Gilbert Richard 文学部外国人教師)
(訳：堀正広、小城義也)

1) 講演内容は次のウェブページで見ることが出来る。

[http://www.iyume.com/kacian/
aroundtheworld.html](http://www.iyume.com/kacian/aroundtheworld.html)

2) Red Moon Pressのホームページ

<http://www.haikuworld.org/books/redmoon>

3) World Haiku Festival 2000のホームページ

[http://www.worldhaikuclub.org/whf2000/
whf2000.html](http://www.worldhaikuclub.org/whf2000/whf2000.html)

4) 著名な現代俳人で俳句誌『吟遊』の創刊者であり編集責任者である。

<http://www.ne.jp/asahi/endu3/hideko3/>

5) この件に関するもっと詳しい情報は下記のウェブページで見ることが出来る。

[http://www.iyume.com/kacian
/toimin.html](http://www.iyume.com/kacian/toimin.html) (日本語版)

<http://www.worldhaiku.net/archive/whac1ja.htm>

6) World Haiku Association のホームページ

<http://www.worldhaiku.net/>

7) World Haiku Association Mission Statement

<http://www.worldhaiku.net/mission.htm>

8) ごく最近の出版物はDimitar Ankievの作品集である。*At the Tombstone* (Dragan Perićによるイラスト) Red Moon Press, 2002.

9) この大会に関する詳しい情報は次のホームページを参照：

<http://www.worldhaiku.net/news.htm>

10) 国際俳句協会のホームページ：

[http://www.worldhaikuclub.org/pages/
linkspoetryorg.html](http://www.worldhaikuclub.org/pages/linkspoetryorg.html)

最近の英語俳句のホームページ：

<http://www.iyume.com/haikulinks.html>

11) Wallace Stevens. *Opus Postumous* (Knopf, 1980, p. 158)

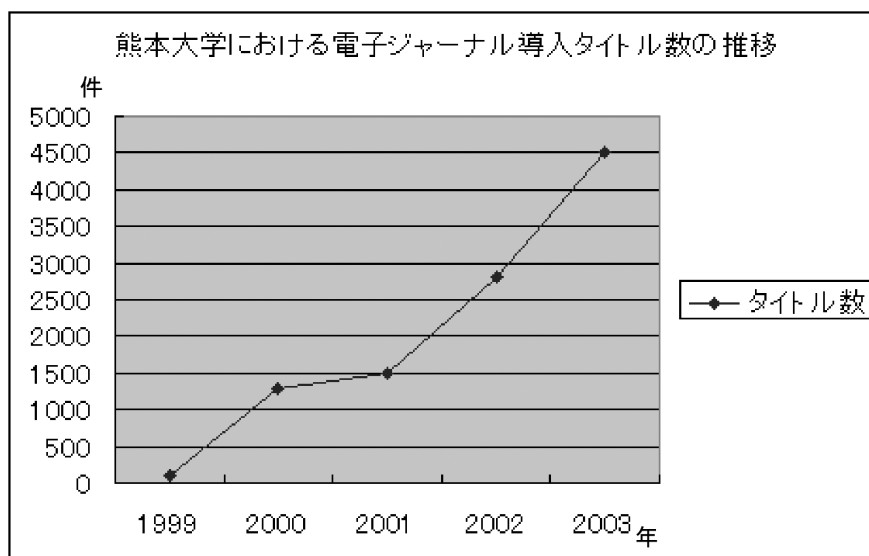
ますます充実した電子ジャーナル

附属図書館では2003年度から新たに次のような電子ジャーナルを導入しました。熊本大学のネットワークに接続されているパソコンから24時間利用できます。

出 版 社	タイトル数	分 野	備 考
ACM (Association for Computing Machinery)	250	情報科学・工学	雑誌、会報・会議録、ニュースレター等
Kluwer	785	全分野	Web of Knowledge からのリンクあり

また、既に導入しているElsevier社の電子ジャーナルサービスScienceDirectの導入範囲を拡大し、全タイトル（1,700タイトル）が利用できます。更に利用の非常に多いNature および Nature Biotechnologyの2誌については、サイトライセンス利用としました。これにより利用の際にID、パスワードを入力する必要がなくなりました。

現在熊本大学で利用できる電子ジャーナルは約4,500タイトルとなっています。熊本大学で利用できる電子ジャーナルのタイトル数の推移は次のグラフのとおりです。



電子ジャーナルは附属図書館ホームページの中にある「電子ジャーナルメインページ」から利用できます。URLは次のとおりです。

<http://ej.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学ではBlackwell、Elsevier、Springer、Wiley、ACM、Kluwerの全ての電子ジャーナルが利用できます。ますます充実した電子ジャーナルを調査研究にご活用ください。

電子ジャーナル・データベース One Point ①

J S T O R

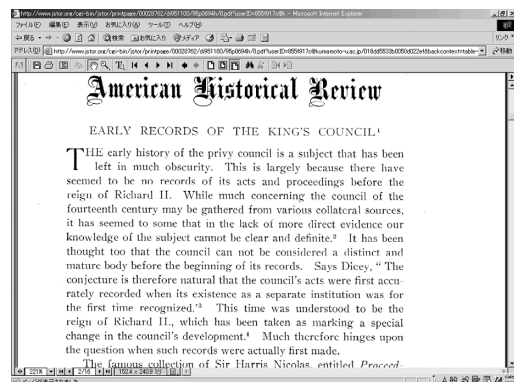
JSTOR¹⁾ (「ジェイストア」と読みます)は Andrew W. Mellon 財団により設立された冊子体から電子化された学術雑誌のバックナンバーを創刊号から提供するサービスです。JSTORは次の6つのコレクションから構成されています。

- 1.Arts and Sciences I Collection
(人文・社会科学分野 124タイトル)
- 2.Arts and Sciences II Collection
(1. のコレクションを補うもの
122タイトル)
- 3.Business Collection
(ビジネス分野 46タイトル)
- 4.Ecology & Botany Collection
(生態学・植物学分野の29タイトル)
- 5.General Science Collection
(科学分野 7タイトル)
- 6.The Language and Linguistic Collection
(言語・言語学分野 47タイトル)

2003年秋にはThe Music Collection (音楽分野 31タイトル) がリリースされます。また、American Indian Studies、Architecture、Art History、Ethics、Folklore、Performing Arts & Visual Studies、Psychology、Public Policy、Religionのコレクションの追加が予定されています。現在全世界で1,627機関がJSTORを利用しており、日本では大学図書館を中心とする37機関が利用しています。JSTORは”Moving Wall”という考え方で雑誌の収録期間を元の雑誌の出版社と取り決めていきます。そのためJSTORで利用できる範囲は創刊号から最新号の3年ないしは5年前までとなっています。雑誌によっては100年以上が利用できます(例：The American History Review 1895-1999)。

熊本大学で利用できるArts & Sciences I Collectionの収録雑誌124タイトルのうち熊

本大学が所蔵している冊子体の雑誌は89タイトル(72%)に上りますが、創刊号から揃っている雑誌はほとんどありません。大量の雑誌のバックナンバーが場所を取らずに、欠号がなく、他人の利用を気にすることなくいつでも利用できます。タイトルのキーワードや著者から検索できる機能も持っていますので何巻にもわたる目次や総索引を引かなくともうろ覚えの雑誌論文を容易に見つけることができます。雑誌論文のフルテキスト画像は600dpiと高精細です。TIFF、PDFまたはPostscriptの形式でダウンロードできます。America Historical Review. Vol. 11、No. 1. (Oct., 1905)、p. 1から始まるJames F. Baldwinの論文のダウンロード画面を次に示します。



人文社会科学分野の資料の遡及利用に充分配慮したJSTORをご利用ください。

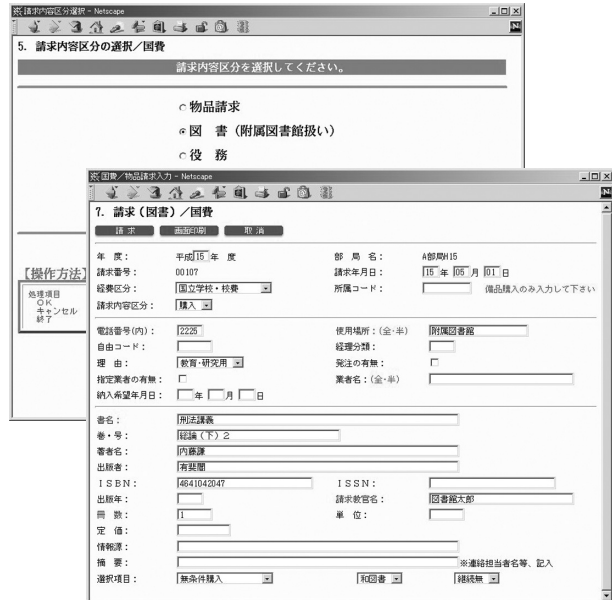
1) URL: <http://www.jstor.org>

図書館システムの更新に伴う オンライン研究室サービスの変更

平成15年2月に、図書館電算機システムを更新しました。これに伴い、従来から図書館ホームページ上で提供しておりました研究室サービス¹⁾も新しく変わりました。概要をご紹介します。

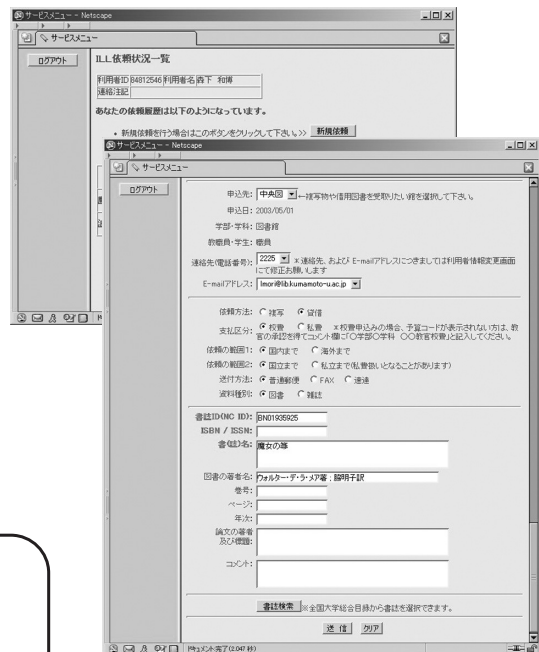
※オンライン図書購入申し込み

- ・研究室サービスメニューからオンライン図書購入申し込みを選択してください。
- ・校費による図書購入の申し込みがオンラインでできます。
- ・既存の熊本大学物品請求管理システム内に繰り込まれましたので同様に操作して請求することができます。
- ・熊本大学物品請求管理システム上で図書の購入情報や予算の確認をすることができます。



※オンラインILL (文献/図書取寄せ) 申し込み

- ・研究室サービスメニューからオンラインILL申し込みを選択してください。
- ・旧システムでは使用できなかった、現在の進捗状況の参照や過去の申し込み状況も確認できます。また、24時間いつでも申し込み可能となりました。
- ・旧システムのIDとパスワードは使用できなくなりました。新IDとパスワードでログインできない場合は図書館までお尋ねください。
- ・利用法を記載したリーフレットをカウンターに用意しておりますのでご利用ください。
- ・多言語対応につき、一部のブラウザで動作しない場合があります。



【お問い合わせ先】

- 図書購入に関すること
附属図書館 図書情報係 (内線 2 2 2 1)
- ILLに関すること
附属図書館 相互利用サービス係 (内線 2 2 2 7)
- システムに関すること
附属図書館 電子情報係 (内線 2 2 2 4)
- 電子メール (共通) : lwww@lib.kumamoto-u.ac.jp

1) 研究室サービスURL
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/svc/>

平成15年度事業計画

- 1 国立大学法人移行への準備
 - ・継承資産目録の作成、現物確認
- 2 広報の充実
 - ・図書館報「東光原」の充実
 - ・学生向け広報の充実
 - ・図書館ホームページのコンテンツの充実
- 3 利用者サービスの拡充
 - ・新入生への図書館ガイダンス、2年生以上の学生及び留学生に対するガイダンスの充実
 - ・総合科目「情報メディアと図書館の活用」支援
 - ・授業やゼミと連携した情報リテラシー教育支援の強化
 - ・電子ジャーナル、データベースのガイダンスの充実
 - ・Webを利用した各種サービスの充実
 - ・医療短期大学部図書室の運営
- 4 電子図書館的機能の充実
 - ・目録情報の適及入力計画の促進
 - ・電子的サービス（電子ジャーナル、データベース等）の充実
 - ・学内研究成果（学位論文、紀要）のデータベース化と公開推進
 - ・本学所蔵貴重書等コレクションの電子化と公開の本格的な実施
 - ・利用者用パソコンの持ち込み利用環境整備
 - ・文献画像伝送システムの利用促進
 - ・図書購入申込みの物品請求管理システムへの統合
- 5 資料の整備充実
 - ・学生用図書及び参考図書の系統的な蔵書構築と基本図書の更新
 - ・シラバス掲載参考図書の整備充実の継続
 - ・視聴覚資料の充実
 - ・複本があり、傷みがひどく利用に耐えない資料の整理
- 6 施設・設備及び保存機能等の整備充実
(中央館)
 - ・増改築計画の推進
 - ・研究室からの返却図書（新設の集密書庫収蔵分）整備
- ・集密書架の増設
- ・喫煙コーナーの見直し
(医学部分館)
- ・図書講義棟の新営
(薬学部分館)
- ・集密書架の増設
(3館共通)
- ・トイレ、照明、閲覧机・椅子、キャレルの整備、カーペット張り替え等、閲覧環境、サインの改善
- 7 地域に根ざした活動の展開
 - ・「国立大学の現状と熊本大学の在り方検討WG」の報告書で提言された図書館活動の実施
 - ・生涯学習教育研究センターとの連携強化
 - ・一般市民等への利用サービスの充実
 - ・地域の関連機関との連携強化
- 8 組織及び管理運営の改善、業務の効率化
 - ・学術情報基盤の整備（専門委員会の立ち上げ、実行案の策定）
 - ・中期目標・中期計画に基づく年次計画の策定
 - ・業務マニュアル整備
 - ・外部評価（モニター）の実施
- 9 学術資料調査研究推進室の調査研究活動支援
 - ・今後のあり方についての検討
 - ・展示会、講演会の実施
 - ・古文書やハーンなど本学所蔵コレクションの電子化に関する調査研究と成果の公開
- 10 その他
 - ・図書館協議会等（全国、九州地区、熊本県内）の諸活動への取り組み
 - ・阿蘇家文書修復計画の継続

最近の図書館の動き (平成15年 1月～3月)

●電動集密書架の増設 (中央館)

中央館では、図書収納能力を向上させる為に、地下書庫 (1-2階部分) に電動集密書架を増設しました。増設した地下1階は、参考図書資料、統計・年鑑等のバックナンバーを配架し、地下2階には、総記・哲学・宗教・歴史を配架しております。

●学生用図書の整備について

平成14年度重点配分経費の配分を受け、新刊書を中心に、学生用図書を新たに中央館で約2,000冊、医学部分館で約100冊、薬学部分館で約70冊購入しました。図書は、新刊書コーナーに配架していますのでどうぞご利用ください。

●職場体験実習受入 (中央館)

教育学部附属養護学校の生徒3名を2月18日～20日の3日間「職場体験実習」として受入れました。図書館の仕事の内容としては、返却された図書を元の書架に戻したり、製本雑誌の所在修正作業などを体験してもらいました。

●新入生対象「図書館ガイダンス」

中央館では、新入生を対象にした「図書館ガイダンス<入門編>」を4月8日～18日の9日間全45回開催し、681名の受講者がありました。内容は図書館利用の案内、資料の探し方 (OPAC蔵書検索)、館内ツアーを実施し、好評を得ました。

附属図書館長の交替

3.31 退任 平山 忠一 (工学部)

4.1 就任 岩岡 中正 (法学部)

平成15年度附属図書館運営委員

法学部	館長	岩岡	中正
医学部	分館長	小川	尚
薬学部	分館長	後藤	正文
文学部	助教授	市川	雅巳
教育学部	助教授	堀畑	正臣
法学部	教授	伊藤	洋典
理学部	教授	西野	宏

工学部	教授	内村	圭一
大学院社会文化科学研究科	助教授	秋吉	貴雄
大学院自然科学研究科	助教授	伊藤	重剛
医学部附属病院	助教授	影下	登志郎
教養教育実施機構	助教授	齋藤	靖
医療技術短期大学部	教授	石丸	靖二

人 事 異 動

■異動 (平成15年4月1日付け)

情報管理課長	蓑原 和秀	(広島大学附属図書館情報管理課長)
情報管理課雑誌情報係長	秋吉 陽一郎	(情報サービス課医学情報サービス係長)
情報サービス課相互利用サービス係長	安陪 光恭	(情報管理課雑誌情報係長)
情報サービス課医学情報サービス係長	福島 勲	(情報サービス課相互利用サービス係長)
情報サービス課電子サービス係	伊波 ひとみ	(情報サービス課相互利用サービス係)
情報サービス課医学情報サービス係主任	田川 紀子	(情報サービス課医学情報サービス係)
情報サービス課医学情報サービス係	宮崎 登紀子	(医療技術短期大学部総務係)
情報サービス課相互利用サービス係事務補佐員	岡崎 絹子	(情報管理課図書情報係事務補佐員)
情報管理課図書情報係事務補佐員	吉田 千恵	(情報サービス課医学情報サービス係事務補佐員)
情報管理課雑誌情報係事務補佐員	北野 香代子	(情報サービス課医学情報サービス係事務補佐員)
情報管理課雑誌情報係事務補佐員	原田 繁子	(情報サービス課薬学情報サービス係事務補佐員)
情報サービス課薬学情報サービス係事務補佐員	城 倫子	(情報管理課雑誌情報係事務補佐員)

■転出 (平成15年4月1日付け)

鹿児島大学附属図書館事務部長	森松 睦雄	(情報管理課長)
鹿児島大学附属図書館情報管理課情報システム係長	中尾 康朗	(情報サービス課電子サービス係)

委員会報告 (平成15年1月～3月)

附属図書館運営委員会

■平成14年度第6回 (1月28日)

[協議事項]

- (1) 平成16年度概算要求について
- (2) 中期目標・中期計画 (原案) について
- (3) 熊本大学学術情報基盤設備計画 (案) について
- (4) 大学評価委員会委員の選出について

■平成14年度第7回 (3月4日)

[協議事項]

- (1) 附属図書館運営委員会規則並びに附属図書館長選考規則の改正について
- (2) 熊本大学学術情報基盤整備計画 (案) について
- (3) 平成14年度事業実施結果及び平成15年度事業計画案について
- (4) 「国立大学法人熊本大学」(仮称) の将来像 (案) について
- (5) 平成15年度学術資料調査研究推進室室員について
- (6) その他
 - ・ Z39.50評価のシステム利用について

日誌 (平成15年1月～3月)

1.16-17	第7回電子ジャーナル・タスクフォース会議 (東京大学)	2.18	熊本県大学図書館協議会実務者研修会・セミナー (崇城大学)
1.22-24	国立大学附属図書館事務部長会議 (岐阜大学)	2.19	福岡アメリカン・センターレファレンス資料室の説明会
1.28	平成14年度第6回附属図書館運営委員会	3.1-31	電動集密書架設置工事 (中央館)
2.6	熊本大学研究シーズ公開シンポジウム (グランメッセ熊本)	3.4	平成14年度第7回附属図書館運営委員会
2.17-18	NACSIS-CAT/ILL講習会担当者会議 (国立情報学研究所)	3.5	NII国際シンポジウム (国連大学)
2.18-20	教育学部養護学校職場体験受入	3.13-14	第8回電子ジャーナル・タスクフォース会議 (東京大学)

利用者用パソコンが新しくなりました。

図書館電算機システムの更新に伴い、今年の1月から中央館をはじめ医学部分館、薬学部分館、医療短大図書室の利用者用パソコンが新しくなりました。特に、中央館に設置された30台については、総合情報基盤センター及び各学部のパソコン室と同じ条件での使用となります。操作方法も同様です。パソコンは1階閲覧室のほか南側の中2階にも置かれています。



編集後記 : 新緑のこの季節、大学は期待に胸膨らませた若者たちを迎え、新しい1年が始まります。

図書館も、より親しみやすい、利用しやすい図書館となるよう努力しています。その一環として図書館のコンピュータシステムを一新しました。図書館のホームページも変わりました。ちょっと戸惑われるかも知れませんが、より良いサービスを目指して作りました。利用してください。

4月からは学術情報発信基地の図書館として、その情報を受け取っていただくために、新入生のための図書館利用ガイダンス(初級編)を始めとして、電子ジャーナルやデータベースの利用ガイダンスを予定しています。皆さんの参加を待っています。(光)

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)*

第36号(2003.4)

平成15年(2003年)4月発行

発行所 熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1
TEL: 096 (342) 2273 FAX 096 (342) 2210
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

編集 加藤信哉, 梶尾勝征, 安陪光恭,
北野典子, 森下和博

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。